

ウクライナ支援 1年報告書
紛争と子どもたち

戦闘激化から1年。790万人以上の子どもたちが
その影響を受けています。

皆さまからのご寄付により、ユニセフは
多くの子どもたちとその家族に支援を届けることができました。

戦争の影響

2022年2月24日にウクライナでの戦闘が激化して以来、多くの子どもたちが故郷や友だち、愛する人たちから引き離されています。子どもたちは暴力や破壊行為を目のあたりにし、計り知れないトラウマを負っています。今日までに、**438人**の子どもが犠牲になり、**838人**が負傷したと報告されていますが、実際の数はこれを大きく上回ると考えられます。数千もの学校と**782**の医療施設が損害を受けたり、破壊されたりしています。子どもが必要とする教育や保健サービスの利用が大幅に制限され、子どもたちを危機的状況に陥れています。

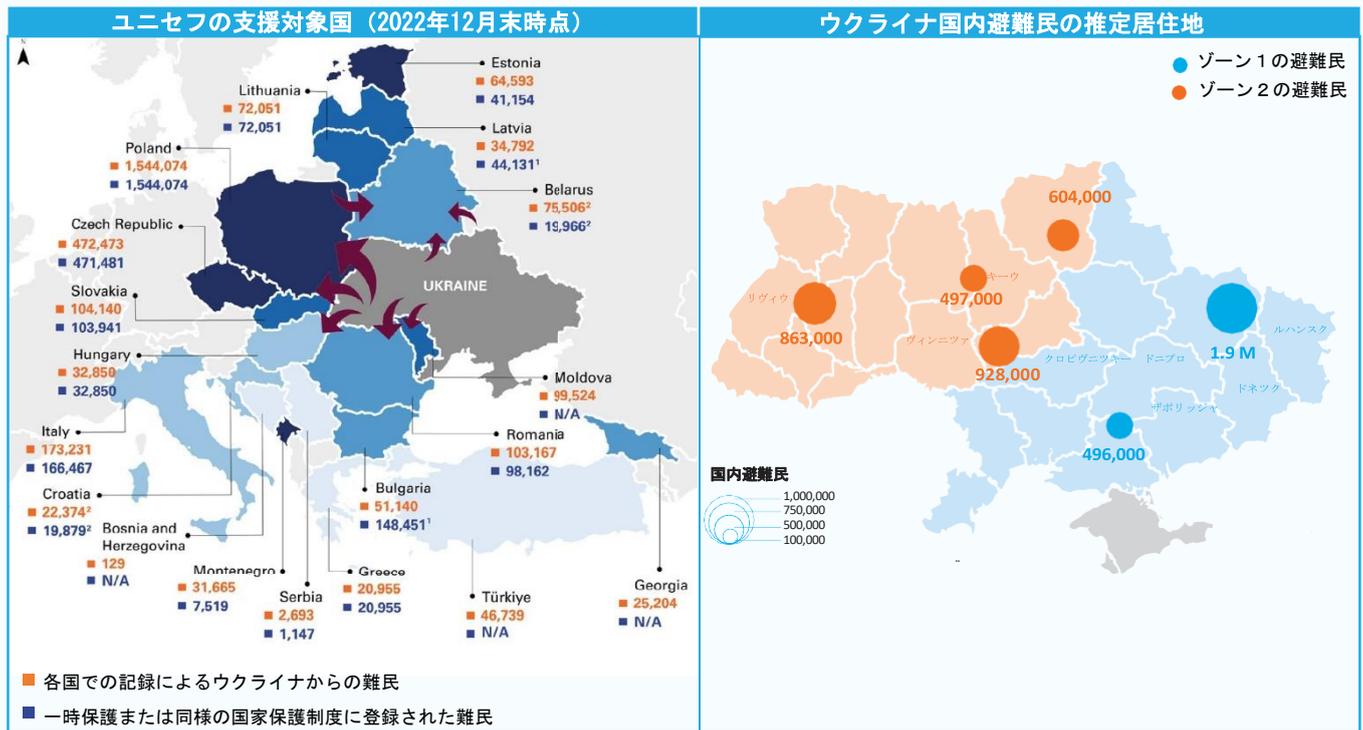
真冬を迎えるなか、生活インフラへの攻撃により広範囲で停電が発生し、**1,600万人**が電力や暖房の不足に加え、水や衛生設備へのアクセス悪化に直面しています。ウクライナでは、**500万人以上**の子どもたちが教育を妨げられました。子どもの4人に3人がオンラインで学習するなか、停電でそうした学びが不可能になることも少なくありません。不発弾による事故など、日常生活における危険と不安も増大しています。



「戦争は、知らない人がやってきて、いきなり銃を撃ちはじめること。そんなことが起こるなんて、思ってもいなかった。これからは、いつも何かにおびえてないといけない。一番いやなのは砲弾。特に自分の家にそれが飛んでくること。あと、食べ物がまったくなくて、他の人に分けてと願うのもつらい」
ボーダンさん（10歳）



[関連動画へ（日本語）](#)



戦争は、国内外への避難、暴力、病気、家族離散、子どもの人身売買のリスクを引き起こしています

2,730万人 が人道支援を必要としています

800万人の難民が欧州で記録され、**480万人**が一時保護または同様の国家保護制度に登録されています

438人の子どもが死亡し、**838人**の子どもが負傷しています

386万人の子どもが国外で支援を必要としています

410万人の子どもが国内で支援を必要としています

2,300の教育施設と**782**の医療施設が損傷を受けるか破壊されています

540万人が国内で避難しています

530万人の子どもが国内で教育支援を必要としています

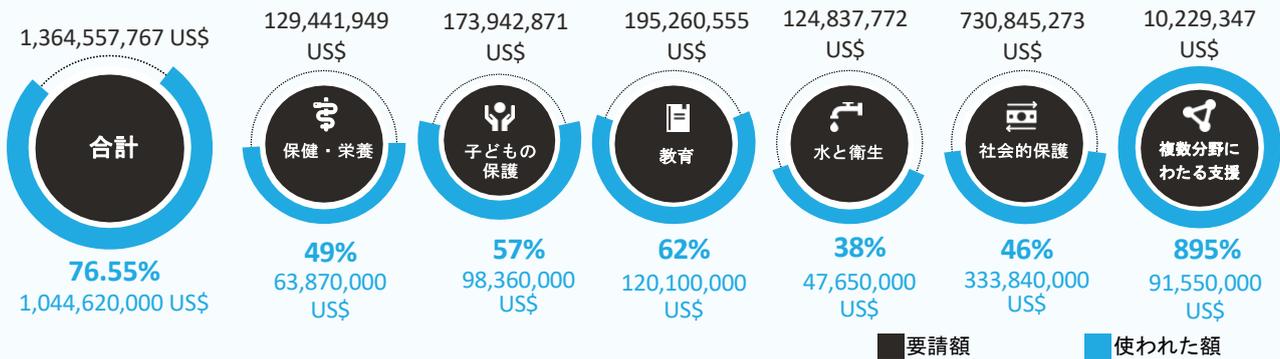
150万人の子どもが戦争に関連したトラウマにより、メンタルヘルスに影響を受けています

主な成果

皆さまからのご寄付により、ユニセフ（国連児童基金）は、生活に不可欠な社会サービスがウクライナの子どもたちに届くよう、支援の規模を迅速に拡大することができました。戦闘激化以来、ユニセフは、個人、企業、団体、学校など民間部門の皆さまから大きなご支援をいただいております。それによって、複数の分野で子どもたちのための成果をあげることができました。皆さまからのご協力は、家族——なかでも、脆弱な立場の子どもとその養育者——に、最も必要で効果的な支援を届けることにつながっています。

戦争の終わりが見えないなか、複数年にわたる柔軟なご協力は、子どもたちの命を守るための緊急支援の継続と、子どもたちの未来を支える早期復旧・復興プログラムの計画を可能にします。また、柔軟な資金は、戦争という常に変化し予測不可能な状況下で大きな力を発揮します。流動的な子どもたちのニーズに応え、地域を越えて活動し、難民受入国の異なる状況に対応することができます。

予測不可能な状況であっても、命を守る支援を通じユニセフは、地域の能力開発支援、インフラの復旧や開発にも投資を行い、長期的で持続的な成果を目指してきました。ウクライナの保健システムはその一つで、**3,100カ所**の定期予防接種施設に**5,186台**のワクチン用冷蔵庫を調達・設置し、**1,500万人**を超える人々がワクチンを接種できるようになりました。チェコでは、子どもと一般向けの外来センターを新設し、**1,187人**の子どもと母親に支援を届けました。ウクライナでは、継続的に教育を受ける機会を提供するため、学習施設を修復し、**12万3,150人**の子どもたちが利用できる見込みです。また難民受入国では、若者の社会参加や職業訓練に加え、学校への登録を含む、公式・非公式の基礎教育の機会を提供するため引き続き支援しています。モルドバとルーマニアでは、レゴ財団とのパートナーシップにより、情報提供や研修を通じて、乳幼児期の子どもの発達の専門家**2万人**の能力強化や、親や養育者**7万人**のスキル向上を行っています。



ウクライナ	達成された主な成果	難民受入国
4,937,295	保健・栄養 ユニセフが支援する施設や移動チームを通じて、プライマリ・ヘルスケアを利用した子どもと女性の数	473,563
3,355,403	子どもの保護 メンタルヘルスや心理社会的支援を受けた子どもや養育者の数	1,248,025
1,458,203	教育 就学前教育を含め、公式または非公式の基礎教育を利用した子どもの数	1,058,230
5,574,624	水と衛生 十分な量の安全な飲み水や生活必需品を入手することのできた人々の数	115,544
224,303	社会的保護 ユニセフによる多目的現金給付支援を受けた世帯の数	53,679
13,291,491	複数分野にわたる支援 社会サービスの利用方法に関する情報を受け取った人々の数	15,712,497
112	パートナーシップ 政府・自治体・市民団体・金融サービス機関とのパートナーシップの数	55

子どもたちのための活動

この戦争は、ウクライナの子どもたちから、1年分の学校での思い出と、よろこびと、友だちとともに輝き、遊び、成長する機会を奪いました。この戦争が子どもたちの未来を奪うことがないように、皆さまの継続的なご支援をお願いします。

ユニセフの挑戦

ウクライナで戦闘が本格化したとき、少なくとも国内の9つの州が集中的な武力攻撃に見舞われました。その結果、死者、負傷者、ウクライナ全土と難民受入国に避難を余儀なくされた多くの人々、住宅や生活インフラへの重大な損傷や破壊が発生しました。爆撃や暴力が続くなか、支援を行うにあたっての最初の難題は、地域へのアクセスの確保でした。最初の数週間から数カ月の間に国境を越えて避難してきた数百万人の90%は女性と子どもでした。国内に残った人々は、地下鉄、地下倉庫、病院の地下室などでの生活を余儀なくされました。その多くは凍えるような環境でした。

「誰も戦争が起こるとは思っていませんでした。誰一人その準備ができていなかったのです。私たちは、子どもたちが知る必要のないことを説明しなければなりませんでした。子どもたちは戦争が何なのか知らなくてよいはずなのに」

ウクライナ・ポルタヴァ州の父親

ウクライナからの難民は、第二次世界大戦以来の規模と速さでヨーロッパ各国に広がりました。先行きの不安と衝撃のなか、緊急事態への対応力が限られていた、あるいは確立されていなかった多くの国々で、数週間のうちに協調した対応が必要とされました。ユニセフはこの状況に即応することができました。

ウクライナ東部では、それまでに**1,470万ドル**の人道支援が行われていましたが、さらにウクライナと難民受入国**19カ国**で計**14億ドル**の緊急支援を展開し、この予期しなかった未曾有の人道的ニーズに応えました。

ウクライナでは、ユニセフの長年にわたる紛争下での支援の経験を活かし、応用することができました。過去の緊急事態下での経験をもとに、緊急対応チームを構成しました。また、2015年の欧州難民危機への対応の経験から、子どもと家族のための支援拠点「ブルドット」(P.5参照)を数日のうちに開設しました。そのコンセプトは、国内で避難生活を送る人々に心のケアを提供する「スピルノ・チャイルド・スポット」(P.6参照)にも採用されました。

ウクライナにおいて、ユニセフはパートナーとともに、1997年から子どもの権利の擁護と促進に取り組んできました。この取り組みによって、子どもたちは質の高い保健サービスや教育、子どもの保護制度を利用することができました。例えばウクライナ東部では、2021年だけで、紛争の影響を受けている50万人以上が、家庭用水浄化の支援を受けました。

ユニセフは、乳幼児から若者に至るまで、世界中のすべての子どもたちの命と権利を守り、子どもたちがその可能性を最大限に発揮できるよう支援することを使命としています。だからこそ私たちは、ウクライナにとどまり、政府や様々な関係者との連携のもと、子どものために活動を続けるのです。

支援物資の調整

ウクライナ東部では、2014年から紛争が続いていました。そのためユニセフ・ウクライナ事務所では、物資供給部門と協力し、戦争の脅威に備えるべく、ウクライナへの物資を戦略的に事前配備し、危機管理計画の策定や、国内外の供給元との関係構築を進めていました。デンマークのユニセフ物資供給センターを拠点とする当初のルートは、ポーランドを経てウクライナに入るといっていましたが、現在ユニセフは、欧州域内に、戦略的に配置されたより大規模で機能的な倉庫を有しており、自由な物資配備と迅速な輸送が可能となっています。ユニセフのスタッフと物流担当官は、信頼できる物流網の欠如や、戦争という予測不能で不確実な状況、気象や物流パターンの変化に、常に対応しています。

その結果、ユニセフの物資供給部門は戦争開始以来、**8,500トン超の物資・サービス1億6,300万ドル相当を戦略的に配置された倉庫に届けることができました。**

保健

- ワクチン 200万回分
- 救急車 15台
- 応急処置キット 2万5,359セット
- 助産キット 6,272セット
- 外科キット 2,666セット
- 車いす 314台
- 補聴器 220個
- 保育器 197台
- 酸素濃縮器と人工呼吸器 442台

その他

- 高機能テント 47張
- 防寒着 28万5,350着
- マットレス 12万5,000枚
- 毛布 22万1,000枚

教育

- 「箱の中の学校」
1万9,751セット
- レクリエーション・キット
1万3,748セット
- 「箱の中の幼稚園」
9,928セット

水と衛生

- 紙おむつ 1,870万枚
- 浄水タブレット 175万錠
- 衛生キット
25万8,825セット
- 貯水タンク 8,974台
- 水処理施設 37カ所

パートナーシップ

難民受入国の一部には、長年にわたるユニセフ・プログラムを通じて培われたパートナーシップや国内委員会のネットワークがあり、政府との連携を円滑なものにしています。その他の国々では、受入国政府を支援するための対応チームが配置され、難民のニーズに応じています。100以上の受入国政府、市民団体および若者ネットワークとの国や地域レベルでのパートナーシップにより、私たちは緊密な関係を築き、新たな多国間関係を構築しています。ワルシャワ、プラハ、ブラティスラバ、ブダペストなどのヨーロッパの都市は、ウクライナからの子どもたちや家族の受け入れに、かつてないほどの連帯感を示しています。例えば、ユニセフと「ユーロシティーズ」（200以上の欧州主要都市からなるネットワーク）のパートナー関係

は、ウクライナから避難してきた子どもと家族が必要な支援を受け、受け入れコミュニティに溶け込むことを目指しています。

しかし、ユニセフによる対応を成功に導いている最大の要因は、この戦争を生き抜き、互いを支え合うことを決意したウクライナの人々です。



ユニセフはパートナーと協力し、ウクライナからの難民のニーズに応えています。

[関連動画へ（英語）](#)



ゾーンアプローチ

ウクライナでは、2月24日に戦況が拡大してから早い段階で、全土を3つのゾーンに区分けする「ゾーンアプローチ」を採用し、緊急支援を展開しました。南東部のゾーン1では、継続的な激しい戦闘によってアクセスが制限されていたため、ユニセフは人道回廊（非武装地帯として保証された経路）において、移動式の緊急対応チームや、複数機関共同での人道車両部隊とともに支援を行いました。水と衛生、保健、子どもの保護、教育物資など供給物資の50%は現地に事前配備され、子どもや女性、避難民など脆弱な立場の人々のために活用されました。中部と西部のゾーン2と3では、国の既存システムを活用しながら、地方自治体や市民団体と協力・連携して支援を実施しました。現在、私たちはゾーン1（南東部）とゾーン2（中部と西部）による「2ゾーンアプローチ」を展開しています。戦争が続くなか、こうしたゾーン編成は、紛争地域やアクセスの問題、既存の資源、政府の取り組み、分野をまたいだ支援やサービスの内容によって、変わることが想定されます。

ユニセフスタッフ

ウクライナで戦闘が激化したとき、ユニセフ・ウクライナ事務所では**91人**のスタッフが活動していました。電力が不足し、それぞれが不安を抱えるなか素早く体制を立て直し、避難所や地下室から任務にあたりました。現場のスタッフは数週間で倍以上に増え、**223人**が全国のゾーン事務所でも活動するようになりました。深刻な人道危機下にあっても、組織として世界中から専門家を迅速に派遣し、支援を最も必要とする子どもたちに手を差し伸べることができる——これはユニセフの大きな強みの一つでもあります。



ユニセフスタッフのユリアは、すべてを置いて、ウクライナの戦火から逃れてきた子どもたちの支援に駆けつけました。

[関連動画へ（日本語）](#)





包括的な対応—ブルードット、スピルノ・チャイルド・スポット、移動式対応チーム

爆撃や砲撃で家や学校、病院などの生活インフラが破壊されると、子どもたちとその家族は住み慣れた街を離れ、国内外への避難を余儀なくされました。多くは最低限のものしか持たず、その道のりは危険で過酷なものでした。人々は暴力や人身売買のリスクに直面し、先の見えない不安に襲われていました。特に冬は厳しく、その状況は発電所の破壊による停電でさらに悪化しています。

子どもと家族を守る支援拠点「ブルードット」

難民受入国では、ユニセフと国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が子どもと家族のための支援施設「ブルードット」を設置しました。ブルードットは戦略的に設置され、重要な情報や社会サービスを提供し続けています。おとなたちが次の移動の準備をしている間、子どもたちが遊んだり休んだりできる、安全な場所でもあります。40を超えるブルードットと移動式チームが、120万人の難民に安全な空間を提供してきました。加えて、「デジタル・ブルードット・プラットフォーム」が立ち上げられ、国境を越えた情報交換を強化しました。ブルードットでは、同伴者のいない子どもの特定と登録を行い、適切な保護サービスにつなげる支援を続けています。ポーランドでは、52万9,477人の人々が、ウクライナ語を話すメンタルヘルスの専門家によるケアなど、ブルードットが提供する包括的なサービスの恩恵を受けています。

ブルガリアでは、「子どもにやさしい空間」、法的支援、カウンセリングなど、6つのブルードットを拠点に5万8,000人以上に支援を届けました。スロバキアでは、8万人の子どもと養育者が同様のサービスを受けました。ベラルーシでは、冬を前に、国境の街ブレストに最初のブルードットを設置し、新たな難民の移動に備えました。

ポーランド
8 拠点
54万8,369人（うち17万9,265人の子どもと36万9,102人のおとな）が包括的な社会サービスを利用しました

モルドバ
11拠点
49,495人（50%が子ども）が保護や複数分野にわたる支援を受けました

ブルガリア
6 拠点
17,940人の子どもと40,307人のおとなが子どもにやさしい空間、法的支援、メンタルヘルスケアの支援を利用しました

スロバキア
3 拠点
8万人以上の子どもと養育者が、保護やメンタルヘルスケアの支援を受けました

イタリア
2 拠点
3,209人の子どもを含む10,725人がメンタルヘルスケアを含む支援を利用しました

ハンガリー
4拠点
3,800人以上の子どもたちが、安全な空間、保護、法的支援、紹介を含む社会サービスを利用しました

ルーマニア
7 拠点
最初にブルードットが設置され、15万人が休息をとりました



「…ブルードットのスタッフが、私たちに何が必要かを尋ねてくれました。支援を受けることができ、感謝しています」

[関連動画へ（英語）](#)



子どもたちが戦争を忘れられるように

エレナさんは4月に、最前線であるミコライウから子どもたちを連れて、キシナウに逃れてきました。「いつも服を着たまま寝ていました。どんなことが起こってもいいように。バルコニーの外には、ライフル銃と軍用車が見えました。兵士が発砲すると、家が揺れるんです。それはとても怖いことでした。私たちは歩いて国境を越えました。やっとの思いでモルドバに着くと、ブルードットのスタッフが、私たちに何が必要かを尋ねてくれました。支援を受けることができ、感謝しています。他に服やおもちゃ、ノートや本もありました。ゲームや教育的アクティビティ、スポーツは、わずかでも子どもたちが戦争のことを忘れるのを助けてくれました」。今では、エレナさん自身がブルードットでソーシャルワーカーとして働いています。彼女が仕事をする間、息子たちは絵を描いたり、他の子どもたちとサッカーをしたりして過ごしています。エレナさんはウクライナの人々を助けることに喜びを感じています。「みんな笑顔になってここを出ていくんですよ」と誇らしげに語ってくれました。

スピルノ・チャイルド・スポット

ウクライナでは、戦禍に見舞われた子どもたちが安心して過ごせる場所として「スピルノ・チャイルド・スポット」が設立され、保護、メンタルヘルスや心理社会的支援、水・衛生用品、保健、学習、レクリエーションなどの社会サービスを提供しました。300以上の拠点で移動式チームが、避難中の子どもとその養育者に包括的な支援を提供しています。2022年2月24日以降、ユニセフは、90のパートナーと協力し、120万人の子どもたちを含む320万人に、国内における子どもの保護など様々な支援を実施しています。さらに、パートナーとの協働のもと、196万人の子どもと養育者が、アートセラピー、安全な空間、個別カウンセリングを通じた心理社会的支援を受けました。約12万6,298人の子どもたちが、個々の状況に応じた専門的な支援を受けました。冬がおとずれると、55以上のスピルノ・チャイルド・スポットで厳しい寒さから子どもたちを守るべく、防寒着や携帯ヒーターが配布されました。

「私たちはいわば、子どもたちが日常を取り戻すのを手伝っているのです。子どもたちは学校や友だち、家族さえ置いて、故郷を離れなくてはなりません。ここでは、普通の子ども時代とは何かを思い出すことができるのです」

マリア・アルタノヴァ (ユニセフ危機対応専門家)

緊急移動式チーム

ウクライナでは、南部と東部へのアクセスが制限され、予測不可能で危険な状況が続いています。しかし、その地域の住民は国内で最も人道的な支援を必要としている人々であり、子どもとその家族を保護するメカニズムが存在しないなかで、しばしば命の危険を感じています。

緊急移動式チームは、人道危機の際に、支援が届きにくい地域の子どものたちと家族に対し、そのニーズに迅速に応えるための訓練を受けています。ユニセフは、70名から成る緊急移動式チームと、複数機関共同での人道援助車両部隊を使って、治安的な理由から立ち入りが制限されている地域の人々にも、支援を届けています。保健、栄養、子どもの保護、水と衛生などのニーズに対応し、93万人以上の人々に包括的な支援を提供するとともに、約3万9,000人の子どもとその養育者を、法的支援や保健といった専門的なサービスにつないでいます。冬には、最前線の地域に暮らす50万人の子どもたちに毛布や衣服、靴などの防寒具を配布しました。

2023年も、ユニセフはスピルノ・チャイルド・スポットやブルドットを通じて、様々な支援を提供し続けます。国内外に避難する人々の急増に備えて、技術・政策・行政の各機関との連携を継続し、国や地方、さらには国境を越えた保護システムを強化します。ウクライナ出身の保健員や心理士、教育専門家にも可能な限り継続的に参加してもらいます。また、最前線のスタッフに対し、ジェンダーに基づく暴力からの保護や、インクルーシブ教育など、子どもの保護に関する訓練や情報を提供していきます。

「到着する人のなかには、今後の計画が定まっている人もいますが、多くの家族は次に何をすべきかを決める必要があります。そのようななかでは、私たちが提供する情報は非常に重要です」

タヴィタさん

(ポーランド・プシェシ駅のブルドット・ボランティア)



ウクライナでは、ユニセフの移動式チームが戦争下の家族に対する支援を行っています。様々な分野の専門家からなる移動チームは、家族と子どもや脆弱な立場の人々に対し、心理社会的支援を実施するなど緊急対応を行っています。それぞれのチームは心理士、ソーシャルワーカー、弁護士、医師によって構成され、国内避難民を支援するためのセンターで活動しています。支援が必要な場所まで車で移動しますが、リモートでの相談にも対応しています。

15歳のダーシャさんは、ウクライナのイジュームに住んでいます。6カ月間、ダーシャさん一家は孤独と飢えと恐怖に耐えてきました。「大切なのは、全員が一緒にいること、そして愛する人を埋葬するという悲しい目にあわなかったこと」とダーシャさんは言います。

しかし、一家のアパートは爆撃で破壊され、喘息を患う母親は薬がなく苦しんでいます。ダーシャさんは今、不安に苛まれています。ユニセフの移動式チームが一家に声をかけ、支援を申し出てくれたときにはほっとしたと話してくれました。

2022年8月18日、ポーランドのクラクフで、腕を見せる6歳のミキータくん。UNIMED医療センターで予防接種を受けました。同年3月2日、戦火を逃れるため、家族とともにキーウを離れました。



保健・栄養

ウクライナでは、2022年2月24日以降、約500万人の子どもと女性が、ユニセフが支援する施設や移動式チームを通じて、プライマリ・ヘルスケアを利用しています。また、2歳未満の子どもの養育者50万人が、乳幼児の食事に関するカウンセリングを受けました。ユニセフが事前に配備した物資には、救急・産科・助産用医療キット3万個の他、人工呼吸器、滅菌器、酸素濃縮器などの医療機器が含まれています。移動式チームは、ジトミル州など深刻な被害を受けた地域の40万2,000人以上が自宅で質の高い医療を受けられるよう、支援を行いました。また、22の州で1万5,000人以上にメンタルヘルスケアの支援を提供しました。

難民受入国では、43万3,700人以上の女性と子どもに支援を届けました。10万4,400人が応急処置キットやその他の衛生用品を利用できるようになりました。さらに、モルドバで4万224人、ルーマニアで9万4,000人、スロバキアで4万3,000人、クロアチアで3万479人がユニセフの健康促進プログラムを受けました。

予防接種

戦闘が激化する以前から、ウクライナは定期予防接種率が世界で最も低い国の一つでした。ワクチンの供給が不足し、はしか、ポリオ、破傷風、ジフテリアが頻繁に流行していました。それでも予防接種率は2014年の63%から2019年には88%に改善していましたが、今日再び低下することが懸念されています。2022年2月24日以降、ウクライナでは、子ども向けの予防接種や新型コロナウイルス感染症のワクチン接種などの医療サービスが広範囲にわたって中断しています。

ユニセフは、親や医療従事者、コミュニティと率先して連携し、ウクライナ国内や難民受入国における予防接種率の向上に務めてきました。緊急対応や通常の支援と並行して、ワクチンの調達・輸送をサポートしました。破傷風・ジフテリアワクチン70万回分と経口ポリオワクチン60万回分の提供を通じて、ウクライナ政府の予防接種キャンペーンを後押ししました。ポーランドとモルドバでは、55万回分を超えるワクチンを調達しました。

2023年、ユニセフは、540万人の子どもと家族の命を守るための活動や、保健・栄養システム強化のための活動を継続するため、1億1,990万ドルが必要です。

2023年以降、私たちはパートナーと協力し、保健インフラの復旧・復興、医療従事者・親・養育者・コミュニティのスキル支援、サプライチェーンの強化など、既存の保健システムの強化に取り組んでいきます。予防接種率の向上、プライマリ・ヘルスケアの利用や保健・栄養物資の確保、乳幼児の健康的な食事の促進は、引き続き優先事項です。また、スキル研修や指導を通じて、ウクライナ近隣諸国の保健従事者への支援を継続します。



ウクライナ全土の病院がお母さんとその子どもたちに質の高い医療を提供できるよう、支援します。

[関連動画へ（英語）](#)



ウクライナの保健施設や産院など1,005カ所に物資を提供しました



ルーマニアでは、移動チームが女性と子ども15,000人に支援を実施しました



新型コロナウイルス抗原検査キット100万個と、破傷風・ジフテリアワクチン70万回分を配布しました



リヴィウ州では、小児科病院と産科病院にある4つの避難所を再建しました



不活化ポリオワクチン20万9,720回分を届けました



508,245人の養育者に対し、乳幼児の食事に関するカウンセリングを実施しました



スロバキアでは、48,947人の子どもたちにプライマリ・ヘルスケアサービスを提供しました



ウクライナの8つの州へ救急車15台を提供しました



「ここにはたくさんの思い出が詰まっています。学校が再建されて、小学校に入学したばかりの子どもたちが勉強できるようになることを願っています」

アナスタシアさん (16歳・学生)

© UNICEF/UN0698332/Uhov

教育

ウクライナでは、数千もの小中学校が損傷を受けるか破壊され、530万人の生徒が教育を受けることのできない要因の一つとなっています。4人に3人はオンラインで勉強していると推定されていますが、インターネットへの接続は制限され、停電も頻発しています。ユニセフは、「バック・トゥ・ラーニング」イニシアティブを通じて1,000校に教育用品を提供し、50万人以上の子どもたちのニーズに応えました。また、遠隔またはハイブリッド形式での学習のための「全ウクライナ・オンライン・教育プラットフォーム」を支援しています。33万3,000人の生徒と13万5,000人の教員が、ウクライナの重要なデジタル学習インフラに登録しています。

難民受入国では、既存のシステムを拡充させることで、新たな需要に対応しています。ポーランドでは、学習教材、ノートパソコン、タブレット端末を学校に配布し、35万8,584人の子どもたちに活用されています。ルーマニアでは、緊急事態下でも授業が開ける教材セット「箱の中の学校」や書籍などの教育用品を提供し、1万5,772人の子どもたちが利用しています。スロバキアでは、ウクライナの子どもたち1万人が学校に入学し、さらに1万人に語学学習教材が提供されました。

「学校と就学前教育は、子どもたちが社会の仕組みや安全に関する重要な感覚を養う場で、こうした学習機会の喪失は、生涯にわたって影響を及ぼしかねません」

アフシャン・カーン

(ユニセフ欧州・中央アジア地域事務所長)

心理社会的支援と教育

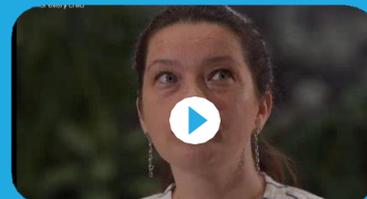
子どもたちが学校に行けなくなることの影響は、教育を受けられなくなるだけにとどまらず、子どもたちの安全、精神的な安定、友人関係、重要な社会的発達の低下を招きます。紛争に関連したトラウマや心理的ストレスは、学力にも影響します。100以上の教育機関で15%の学生が、メンタルヘルスの悪化が原因で学びを中断しています。生徒のメンタルヘルスと幸福に対するユニセフの取り組みにより、330万人の子どもと養育者への心理社会的支援が促進されました。

9万9,000人の教員への研修では、子どもたちの心理社会的ニーズに目を向けるよう促すことを目指しています。同時に、紛争の影響を受けている地域の養育者には、引き続き子どもたちの学習を支援するためのツールを提供します。心理社会的支援を組み込み、家族やコミュニティも巻き込みながら、学習と社会的スキルへの取り組みをさらに進め、子どもたちのメンタルヘルスを支えていきます。

2023年12月までに、500万人の子どもと若者の学習継続を支援するため、1億7,490万ドルが必要です。

2023年、ユニセフは「学びへの復帰」と「メンタルヘルスの回復」という2つの優先事項を掲げて、教育システムの強化に注力します。これらの優先事項には、避難を余儀なくされている子どもや紛争の影響を受けている子どもを中心に、すべての子どもたちの学習の継続が含まれています。ユニセフは今後も、学校・家庭・コミュニティにおける教育・未就学児サービスの支援、施設の復旧、研修プログラムを通じた教員と養育者のスキル向上を支えていきます。

教員で4児の母でもあるオレナさんは、2022年2月24日にオデーサに響いたロケット弾の音を今でも覚えていません。夫が窓を開けて言いました。「聞いて。戦争がはじまった」。娘たちは家じゅうを走りまわり、「ママ、爆弾よ」と叫びました。その後、オレナさんは子どもたちとともにモルドバに避難しましたが、最初の2カ月は「ロボットのように生きていた」と言います。その後、彼女はウクライナから逃れてきた子どもたちを支援する活動をはじめました。ユニセフと地元のパートナー「ステップ・バイ・ステップ」が、首都キシナウの人形劇場を使って教育活動を行っており、オレナさんは、同じくウクライナ出身の教師8人とともに、計1万5,000人の子どもたちに、言語、数学、アートセラピー、ダンスのクラスを実施してきました。「ここにいる子どもたちは、ウクライナでの生活とのつながりをほとんど失ってしまいました。このような活動に参加することで、子どもたちはかつてのような子ども時代に帰ることができるのです。ここに来るとき、あたたかい気持ちになり、希望をもらいました。長女はルーマニア語を習い始め、次女はたくさんの友だちを作りました。ユニセフによる取り組みのおかげで、娘の笑顔を取り戻すことができました」



「仕事を続けられていることに感謝しています。自分の人生を続けられるから……」

関連動画へ (日本語)





© UNICEF / UN0769387 / Sidash

社会的保護

アレクサンドルさんとヴェネラさんの2歳の息子マカルくんは、ダウン症です。戦争によってアレクサンドルさんは仕事を失い、生活必需品すら買えなくなりました。ユニセフの現金給付支援により、おむつ、食料、医薬品、知育玩具を購入し、家賃や光熱費も支払うことができ、マカルくんは専門家のもとで療達のためのクラスを受けられるようになりました。

ウクライナでは、1,360万人が避難を余儀なくされ、膨大な数の人が失業しました。生計を立てる手段の喪失と貧困率の上昇により、家族は暖房用の衣類や燃料といった生活必需品を購入することができなくなっています。緊急時には、物資の供給よりも現金給付の方が費用対効果が高い場合があることがわかっています。現金給付は、経済的困難に直面している脆弱な立場の家族にとって、自ら優先順位を決めて、尊厳をもって基本的ニーズを満たすことができる、重要な短期的セーフティネットです。ウクライナでユニセフは、2022年3月に現金給付プログラムを開始し、22万4,303世帯に2億9,000万ドルを配布しました。

難民受入国では、政府と協力して、社会保護制度において現金給付の規模を拡大しています。例えば、モルドバでは、他の国連機関や労働・社会保護省とともに、現金給付の規模を一世帯あたり37ドルに拡大し、8万世帯のモルドバと難民の人々が無事に冬を越すためのニーズに対応しました。

冬対策

ウクライナでは現在、ユニセフと政府は冬対策の支援活動を実施しています。事前に配備した1億3,760万ドルの人道物資に加え、2,100万ドル相当の防寒用品を調達しました。パートナーであるウクライナ都市協会と協力し、ハルキウ、ヘルソン、ドネツクなどの前線地域や奪還地域で配布する冬服、給湯器、発電機などの資金を31の地方自治体に提供しました。

2023年、ウクライナと難民受入国で暮らす27万6,686世帯への現金給付支援を行うため、4億4,380万ドル相当が必要です。

2023年、ユニセフはウクライナと難民受入国における社会保護制度の強化を継続するとともに、直接現金給付プログラムにより、家族が生活を回復できるよう支援します。ユニセフの検証は、支援対象者を絞るのに役立ちます。私たちは現金給付の基準を開発し、難民受入国が現金給付プログラムを実施するのを支援しています。



モルドバでは2,379世帯の難民が、ユニセフとUNHCRの現金給付支援を受けました



ベラルーシでは2,300人以上が、ベラルーシ赤十字社およびベラルーシ郵便局とユニセフの現金給付支援を受けました



スロバキアではウクライナの2,374世帯が、教育支援のための現金給付を受けました



ハンガリーでは125世帯、ブルガリアでは131世帯が、現金給付支援を受けました

8歳のエバちゃんは自宅が破壊され、避難したイルピニ市のトゥブキーモジュラータウンで母親や姉と10平方メートルの部屋で生活しています。停電があり、暖房も十分なく、携帯やインターネットの通信環境も整っていません。エバちゃんは慢性気管支炎を患っていますが、電力も限られているため、吸入器を使うこともできません。「どこも凍える寒さなので、エバは鼻水と咳が止まりません。風邪をひかせたくないの、今は学校にも行かせていません」と母親は話します。この冬、エバちゃんのような子どもたちを支援するため、ユニセフは毛布や衣服、靴などの防寒具に加え、家族への現金給付支援を行いました。



© UNICEF / UN0760147 / Olena Pihon

子どもの保護



ウクライナのリヴィウで、ユニセフから支給された新しい車いすを使いこなす11歳のマルガリータさんとその母親。

戦禍にさらされた子どもたちは、ショック、トラウマ、絶望を経験します。国境を越えて逃げてきた人々は、違法な養子縁組、子どもの人身売買、性的虐待を含む暴力、虐待、搾取の危険にさらされています。ウクライナにとどまっている人々にとっても、避難所に安全を求めたり、国内の他の地域に移動したりすることは、計り知れないほど大きなストレスとなっています。子どもたちや養育者が、この1年で経験したトラウマに耐え、そこから回復するためには、必要な時に、継続的なメンタルヘルスや心理社会的支援を提供する必要があります。ユニセフの支援により、心理士（多くはウクライナのボランティア）は、ブルドットやスピルノ・チャイルド・スポットといった拠点で、移動式 チームや「ポルーチ」メンタルヘルス支援プログラムを通じて、必要な人にオンラインと対面の両方でサービスを提供しています。

ウクライナでは、35万7,963人の障がいのある子どもを含む、330万人以上の子どもと家族が、メンタルヘルスケアの支援を受けました。1万2,140人以上の専門家や支援スタッフが携わり、スポーツをしたり絵を描いたりするなどの活動の機会や場を提供しました。戦争の影響を受けた子どもたちが恐怖を乗り越え、社会生活に復帰できるよう支援しました。ユニセフとパートナーは、複数分野の専門家によるチームを編成し、ホットラインへの問い合わせ対応や、入所施設から避難してきた子どもたちのモニタリングなどを支援しました。そして、同伴者のいない、または家族や養育者と離ればなれになった10万人以上の子どもたちの身元を特定し、記録し、子どもたちに必要な支援を提供しました。また、こうした子どもたちが家族と再会できるまでの間に、一時的に子どもを預かりケアをするための研修を、3,406世帯の家族に対し行いました。

難民受入国では、ポーランドの27万5,000人以上の難民を含む84万人の子どもたちとその養育者に対し、ユニセフが支援するソーシャルワーカーを通じ、メンタルヘルスケアの支援を提供しました。ユニセフ、パートナー、受入国政府は、3万2,000人以上の子どもたちの身元を特定し、安全に帰国できるよう支援しました。また、そのうち1万人に対し、安全や健康のための代替ケアを提供しました。

ジェンダーに基づく暴力

この1年の戦争は、特に女性への大きな負荷となりました。女性は移動中、身体的な危険、性的虐待や搾取、暴力に直面します。ウクライナでは、スピルノ・チャイルド・スポットに配備された移動チームが、40万19人の女性と子どもたちに支援を行い、このうち2万9,500人の女性は、ジェンダーに基づく暴力を予防し、対処するための専門的支援を受けました。

また、ジェンダーに基づく暴力を経験した4万3,700人の女性がメンタルヘルスおよび心理社会的サービスを利用しました。

難民受入国では、31万1,000人の女性と子どもが、ブルドットを通じて、ジェンダーに基づく暴力を予防し、対処するための保健、社会、司法の専門的支援を受けました。

400万人の子どもとその養育者にメンタルヘルス支援と心理社会的支援サービスを提供するため、1億6,200万ドルが必要です。

2023年、ウクライナにおける子どもの保護プログラムでは、同伴者のいない、または家族や養育者と離ればなれになった子ども、施設で暮らす子ども、地雷の被害を受けた子ども、その他代替ケアを受けている子どもへのケースマネジメント（個別の事例への対応）に注力します。難民受入国においても、国や自治体と協力し、同伴者のいない子ども、障がいのある子ども、施設から避難してきた子どもを含む難民の子どもたちへの支援を強化します。そのため、ユニセフはブルドットやデジタルブルドットを拡大していきます。

子どもたちが安心して友だちを作り、楽しく過ごすことができるよう支援することが、私の仕事です。

ダイアナ・センバー

(ポルーチプログラムスタッフ、心理士)



Professional football coaches also work with the children.

「サッカー大好き！」と12歳のナスチャさん。母親と一緒にキーウからウクライナ西部の小さな村に避難し、「キーウでは毎週サッカー教室に通っていたから、ここでも新しい友だちとサッカーができてうれしい」と話します。

[関連動画へ（英語）](#)

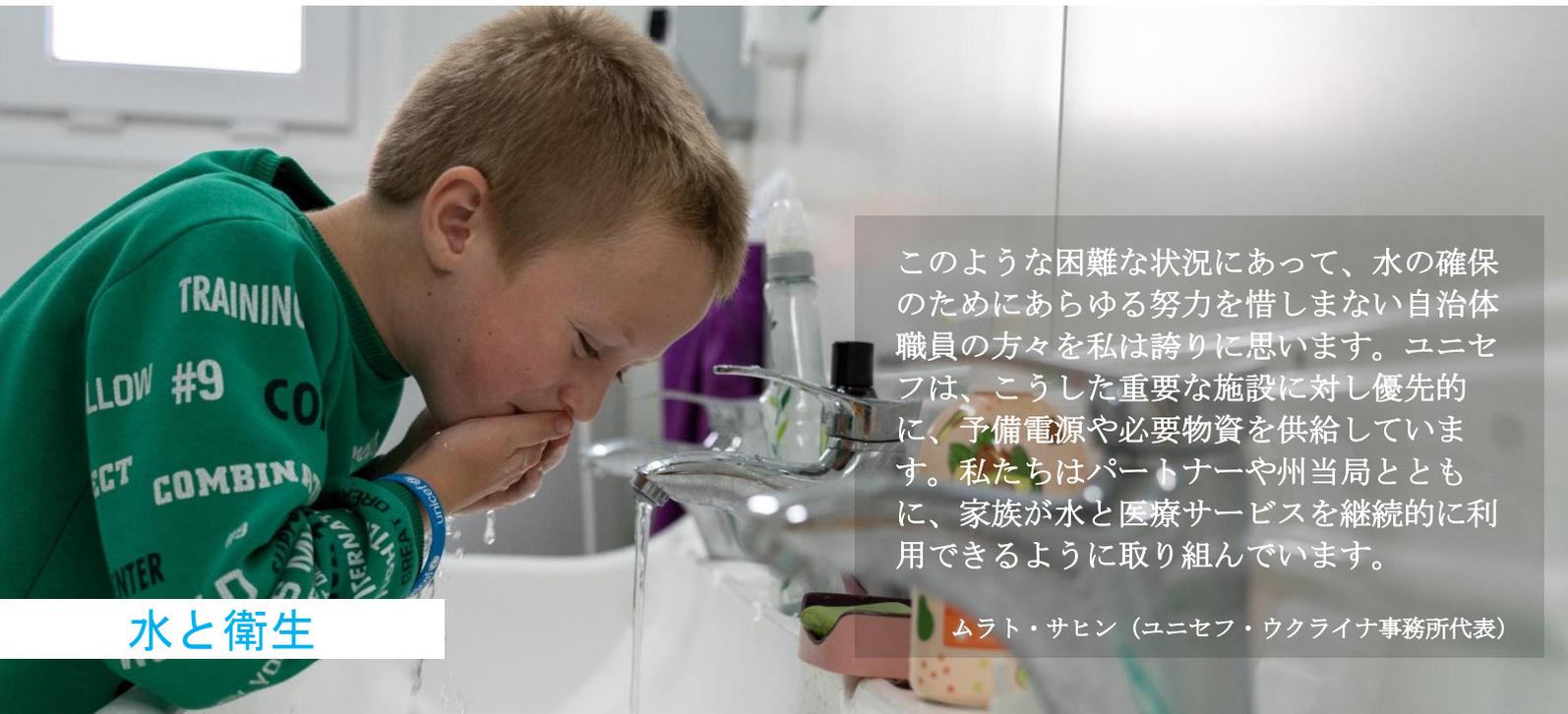


幼稚園に駆けこもう！

スロバキアでは、発達のリスクや遅れを抱えるウクライナの幼い子どもたちが親子に必要なサポートを受けることができます。

[関連ウェブサイトへ（英語）](#)





水と衛生

このような困難な状況にあって、水の確保のためにあらゆる努力を惜しまない自治体職員の方々を私は誇りに思います。ユニセフは、こうした重要な施設に対し優先的に、予備電源や必要物資を供給しています。私たちはパートナーや州当局とともに、家族が水と医療サービスを継続的に利用できるよう取り組んでいます。

ムラト・サヒン（ユニセフ・ウクライナ事務所代表）

ウクライナの多くの地域で、電力や水道設備の破壊により、家庭や学校、病院に水が供給されず、非常に厳しい状態になっています。水を媒介とする病気の発生の危険性が高まり、特に衛生水準が低下していることから、命の危険が高まっています。難民受入国では、人口の急増により、難民の宿泊施設や設備がひっ迫しています。

ウクライナでは、戦争が激化して以来、ユニセフの支援によって**560万人**の人々が安全な水を利用できるようになり、**56万人**が容器入りの水や給水車による緊急用の水を受け取りました。11月だけでも、ルハンスク、ハルキウ、ドニプロのコミュニティセンターや一時避難所に滞在している推定**8万7,000人**の避難民が、安全な飲み水を受け取りました。ユニセフは、ハルキウ・ヴォドカナル水道システムの浄水用に、**14.25トン**の液化塩素の調達を支援し、90万人に安全な飲み水を提供しました。戦争で破壊された水道設備の復旧、修理、整備を行い、**390万人**以上が、安全な水を利用できるようになりました。また、**160万人**の国内避難民に衛生キット、生理用品、冬物などを提供し、不衛生な習慣や不適切な廃棄物処理による病気の発生を予防しています。

難民受入国において、ユニセフは**10万人**（うちポーランドで**6万6,000人**）に宿泊施設での安全かつ十分な水と衛生サービスを提供しました。

5万5,000人以上の子どもたちに、衛生設備や衛生キット、生理用品、気温が下がるなか必要な毛布や衣服、靴などの防寒具を提供しました。ブルガリアでは**9,700人**の難民に冬物と、**5,081人**に水と衛生用品を提供し、モルドバではブルドットや「子どもにやさしい空間」に暖房設備を設置し、水と衛生のインフラの凍結を防ぎました。

2023年、570万人以上に安全な飲み水を提供するため、1億5,050万ドルが必要です。

2022年に締結した水道事業会社とのパートナーシップを通じ、ユニセフは2023年も、アクセス可能な地域で破損した水道インフラの修理と復旧に取り組めます。また評価と調査を継続し、支援の成果についてもモニタリングします。ユニセフは水と衛生分野のリーダーとして、国や地方当局、**47**の加盟団体、そして**85**の実施パートナーと緊密かつ機敏な連携を行い、地域における水と衛生のシステムや技術を最大限に支援します。

また国境を越えて、ブルドットにおいて、水と衛生の設備、衛生用品、必要な情報など包括的なサービスを提供できるよう引き続き支援していきます。また難民の移動の増加に備え、不可欠な水と衛生に関する物資を調達し、国境の拠点にあらかじめ配備していきます。



キーウ郊外の小さな町ボロディアンカでは、戦争の初期に激しい戦闘があり、市街地の9割にあたる、350の住宅、700のアパート、重要なインフラ設備が破壊されました。市役所の主任技師は、砲撃のなか、命がけでモジュール式の上下水道システムの損傷を修復した一人です。ユニセフはボロディアンカ水道光熱公益事業団と協力して発電機5台を購入し、電気がなくても上下水道の処理ができるようにしました。



©UNICEF/UN0753500/Rekajitis

社会的行動の変化と 紛争の影響を受けた人々への説明責任

キラさんはウクライナ、ハニアさんはポーランド、アマリヤさんはベラルーシ出身で、みんな仲良しです。ポーランドでは、ビャウイストクにあるユニセフが支援する52番幼稚園と一緒に通っています。

個人や家族が特定のサービスを受けるにあたり、信念や習慣が妨げになることがあります。例えば、子どものワクチンにまつわる誤解や、思春期の子どもたちがメンタルヘルスケアに消極的なことなどが挙げられます。このような状況は、難民となって不慣れた文化・社会的環境におかれ、特に言葉の壁もある場合には、さらに悪化します。物価の高騰に伴う誤った情報は、難民とその受け入れ先コミュニティの間に緊張をもたらす可能性があります。このような状況では、虐待や暴力、差別のリスクが高まります。

ユニセフは、**ウクライナ**の**1,300万人**以上の人々に、社会サービスの利用方法や爆発物リスクに関する情報を発信しています。このキャンペーンは、ソーシャルメディアやデジタル・プラットフォーム、鉄道の駅、国境通過点などで実施した他、**670**の国内避難民のための拠点にも直接働きかけました。

予防接種に関する情報を**450万人**以上に、母乳育児に関する資料を**45万人**の妊婦にオンラインで提供しました。スピルノ・チャイルド・スポットでは、「エデュテインメント」キャンペーンが展開され、避難民の子どもたちの学習や受け入れコミュニティへの参加を促す支援を行いました。その他にも、代替の学習手段として、Numoアプリを通じ子ども向けのコンテンツを**460万人**に提供しました。

世界各地の難民受入国での知見から、インフレや燃料危機など国内の経済的負荷のしわ寄せが、難民にくる可能性があります。**難民受入国**において、ユニセフは広報キャンペーンを通じ、難民をめぐる共生と理解の促進をはかっています。またプログラムを通じ、難民が受け入れコミュニティにおいて社会サービスを公平に利用できるように支援しています。ユニセフはパートナーとともに、特に社会サービスの利用方法に関する情報を**1,500万人**以上に伝えました。ブルドット、ポーランドのデジタルプラットフォーム、モルドバのViber（ソーシャルメディア）、ベラルーシのソーシャルネットワークなど、私たちが手を差し伸べ、情報を提供する方法は数多くあります。

ルーマニアでは受け入れコミュニティにおいて、オンラインキャンペーンを通じて、社会参加に関する情報を**25万6,000人**に発信し、**1,700人**が情報にアクセスしました。チェコにおいても、プラハ市とともに同様のキャンペーンを実施し、**2万7,000人**以上に情報を届けました。

ユニセフではこうした施策を通じ、紛争の影響を受けた子どもやその養育者から寄せられた声を、支援の質の改善に役立てています。出身地に関係なく、誰もが公平に社会サービスを利用できるよう提唱することで、受け入れコミュニティにおける難民の社会参加を促進します。

説明責任については、ユニセフはホットライン、フィードバックフォーム、調査、迅速な評価、その他の手段を通じモニタリングを行い、ウクライナと難民受入国より寄せられた、それぞれ**30万件**以上、**14万件**以上の問い合わせと意見に対応しました。

2023年、ユニセフは爆発物リスク教育の普及を強化するとともに、社会サービスへのアクセス、衛生や定期予防接種、国内の施設廃止に関する情報も継続して発信します。



ウクライナとポーランドの子どもたち、共通語は友情

ワルシャワの障がいのある子どもたちのためのセンターは、どのようにインクルージョンを推進しているのでしょうか？

[関連ウェブサイトへ（英語）](#)



リリアちゃん（7歳）は、ルーマニアで学習を続けています。リリアちゃんは発達に遅れがありますが、ユニセフが支援するウクライナの子どものための教室で、他の子どもたちと一緒に、ウクライナ人の先生から学んでいます。

[関連動画へ（英語）](#)



前に進むために

2023年、ユニセフは確立された人道緊急支援体制のもと、ウクライナの人々への支援を継続します。子どもの保護支援、救援物資の調達、不可欠な社会サービスの提供とその質の向上、今後予想される避難民への備え、政府システムへの支援など、状況に応じた柔軟な支援を継続し、強化します。また今後も、緊急対応と子ども主体の開発・復興支援の連携を強化に重点をおきながら、予測していなかった政治環境にも対応可能な支援計画を準備します。

ウクライナの東部と南部では、紛争状態が続き、アクセスが制限されています。ユニセフはこうした地域において、子どもたちのために人道緊急時の安全な空間を設置し、多くの子どもが利用できるよう、自治体やNGOなどと協力し支援します。スピルノ・チャイルド・スポットでは引き続き、国内避難民の子どもやその家族が必要な社会サービスを利用できるよう、支援します。また、パートナーとの協力により、若者へのメンタルヘルスケアの提供も続けていきます。

ユニセフは、子どもたちが家族と過ごすこと、あるいは家庭的な環境で生活することが重要だと考えています。そのため、家族と離ればなれになった子どもが家族と再会できるよう支援を継続するとともに、同伴者がいない、あるいは施設にいる子どもたちのケースマネジメントも行っています。引き続きNGOと協力しながら、現金給付支援を優先事項として、特に里親に対して実施します。現金給付支援は他の国連機関と共同で行っており、経済的困難の度合いにかかわらず、家族が尊厳を失わずに子どものケアをできるよう支援することができます。

アクセスに制約の少ないその他の地域では、国の早期復旧・復興計画に子どものための社会サービスが組み込まれるよう、引き続き提唱していきます。私たちは、子どもたちのニーズに即座に、そして将来にわたって確実に応えていきます。国内避難民であれ、難民であれ、すべての子どもたちが社会サービスを公平に利用できるよう、就学前教育や子どもの保護など、子どもの健康と教育を支えるシステムを強化するために、パートナーとの協力を続けています。例えば障がいのある子どもや施設にいる子どもなど、最も弱い立場の子どもたちに手を差し伸べることで、誰一人取り残されないようにします。

ウクライナから近隣諸国に避難した難民のニーズに応えるため、ユニセフは各国別の対応策を検討し、既存の人材や資源とシステムを駆使しながら、ニーズに即した支援を提供します。

私たちはこれまで、政府や自治体と協力し、国連のパートナーやユニセフの国内委員会とも連携しながら、**19カ国**で教育、保健、栄養、子どもと社会的保護などの分野での支援を拡大してきました。

戦争の影響を受けた400万人の子どもを含む940万人の緊急および長期的なニーズに応えるため、ユニセフは2023年、11億ドルの資金を必要としています。

分野	ウクライナ (米ドル)	難民受入国 (米ドル)
保健と栄養	104,000,000	15,891,889
子どもの保護 <small>(緊急下のジェンダーに基づく暴力、 性的搾取や虐待からの保護含む)</small>	111,010,000	51,278,716
教育	100,000,000	74,890,431
水と衛生	145,000,000	5,539,917
社会的保護	369,230,400	74,609,389
複数分野にわたる支援		7,289,662
合計 (米ドル)	829,240,000	229,500,004

制約のない柔軟な資金調達を行うことにより、さらなる国内避難民や難民への備えを行うことができます。柔軟な資金によってユニセフは、政府による支援事業や早期復旧・復興計画と並行して、保健、栄養、子どもの保護、ジェンダーに基づく暴力、水と衛生、社会的保護などの分野で重要なサービスを提供し、維持、拡大することができます。

民間部門の皆さまからは、ウクライナに対し多大なるご協力をいただきました。ご寄付をお寄せくださった、**47カ国の921**を超える企業、**244**の慈善団体パートナー、**141**の財団、そして多くの個人の支援者の皆さまに、ウクライナの子どもたちに代わって、お礼を申し上げます。

ウクライナの最も脆弱な立場にある子どもたち、最も危機的状況にある子どもたち、そして戦争の想像を絶する影響に苦しむ忘れられた子どもたちに手を差し伸べるためには、これまでも、そしてこれからも、皆さまのご支援が欠かせません。

そして何よりも、戦争の終結を訴え続けていきます。平和が戻り、維持されてはじめて、ウクライナの子どもたちは平穏な生活や子ども時代を取り戻し、心の傷から回復することができるのです。